

甲賀市企業人権啓発推進協議会

人権標語入選作品表彰

昨年12月(人権週間一環行事)に募集しました人権標語に106作品の応募をいただきました。その中から一次審査・二次審査を経て最優秀作品1点、優秀作品11点を決定いたしました。たくさんのご応募ありがとうございました。



最優秀 望田 彩さん



表彰を受ける12名



甲賀から 世界に向けて投げようよ
思いやりの手裏剣を

(株)滋賀松風 望田 彩



気を付けよう 自分目線の思い込み

ショット日本(株) 森 翼

気づきあおう 互いの気持ち

築いていこう 住みよい社会

アヤハ自動車教習所水口校 林 勇樹

話す勇気と聞く努力

みんなで作ろう 明るい職場

住友電工プリントサーキット(株) 庄司 達哉

開こう心のバリアフリー

築こう社会のバリアフリー

NECライティング(株)滋賀工場 陸川 隆

自分が笑うと、相手も笑う。相手は自分の鏡です。

近江化学陶器(株) 北田喜代美

常に持つ 相手を想う 心の目

滋賀県製薬(株) 福永 恵子

大好きです 人とは違う その個性

あいの土山福祉会エーデル土山 杉岡 由紀

私から 悪しき前例 絶つ勇氣

甲賀農業協同組合 中村 直樹

違うから輝くあなたのその個性

近江化学陶器(株) 加柴 好美

君の心は ほんわかで ぼくの心も ほんわかで
みんなが みんなが ほんわかで

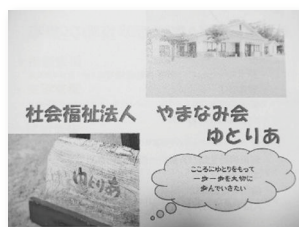
(株)滋賀松風 園田 玲奈

十人十色のちがう良さ 絆が深まる 認め合い

大塚オーミ陶業(株) 横山 一夫

障がい者雇用にかかわる学習・懇談会

平成29年11月15日(水)



11月15日(水)、午後1時より社会福祉法人やまなみ会の「ゆとりあ」様におきまして、障がい者雇用にかかわる学習・懇談会が開催され、21名のご参加を頂きました。

「ゆとりあ」様は、就労継続支援B型事業所であり、主に精神障がい・発達障がいの方々を対象に、①生活リズムを整える場、②日中活動の場、③就労を目指す訓練の場として生産活動を中心とした就労支援に取り組んでおられます。

現在は、定員20名に対し34名が「ゆとりあ」様と契約され、1日当りでは17名～23名の方が施設を利用されておられます。これらの方を「ゆとりあ」様のスタッフ6名の皆さんで生活・対人関係に関する相談支援、社会のルールや身だ

しなみ等の生活支援、就労に向けた必要知識等習得に関する就労支援、4グループに分かれた生産活動、日帰り旅行などの課外活動などに対応されております。

今回「ゆとりあ」様を見学させて頂きまして、育成面において特筆致したい内容を2点ご紹介させて頂きます。

1つは、生産活動に関し、施設利用者の方々をリズムグループ(生活リズムを付け、自分のペースで過ごせる時間を作り、心と身体のバランスが取れるよう体調面の調整を主としているグループ)、リズム2グループ(作業への集中力継続を図り、個々の振り返りや面談も行うなどリズムグループからは一歩進んだグループ)、トライグループ(役割分担し協力し合うことで対人関係や集団活動に慣れていき、また作業を通して達成感を感じられることを目的としたグループ)、ワークグループ(就労に向け体力・集中力の維持を図るグ

グループ)との各人の要望や体調等に応じた4グループに分けて編成し、かつ各グループ共に概ね20名～10名の人員規模として、スタッフの目が行き届く範囲でのきめ細かい取り組みがなされていることであります。

当日は、事業内容等をご紹介頂きました後、実際に生産活動に従事されておられるリズムグループ、リズム2グループの作業場を拝見させて頂きましたが、従事されている皆さんが正確かつ手際よく組み立てている成果物が次々と出来上がっていく見事さに目を奪われ、また一生懸命に作業に取り組んでおられるお姿に感銘を受けました次第です。

2点目は、作業場を見学させて頂いた後の懇談会にて、「就労支援の現場から」と題した「ゆとりあ」様スタッフのご説明を拝聴致しましたが、特に①各人の特徴をよく把握し、②指示などの本人への関わり方についても各人の特徴等に配慮し、③仕事終了時には一声評価し、④特に各人の不調時

のサインは早めに気付き支援者に発信する等の細心かつ思いやりにあふれた目配り心配りに努めておられることを伺いし、私共の人材育成に関しても参考になるところ大でありました。

地道で目立たない取り組みではありますが、「ゆとりあ」様の社会福祉・障がい者雇用において無くてはならない活動をこの度直に拝見させて頂き、障がい者雇用の向上と就労支援に関する出来る限りのお手伝いが、私共と致しましても企業の社会的責任として今後も一層取り組むべき課題であることを再認識する機会となりました。

終わりに、この場をお借り致しまして、ご多用にも関わらず当日ご案内頂きました「ゆとりあ」様スタッフの皆様、あらためて感謝申し上げます。

住友電工ウインテック(株) 弘重晴康(記)

役員対象フィールドワーク研修

2018年2月2日(金)

平成29年度役員対象フィールドワーク研修が開催されました。参加者は19名で兵庫県姫路市にある西御着総合センター資料館と皮革工場見学ならびにオリジナル眼鏡ケースの製作を体験して来ました。



皮革加工の現場見学

当日は前日の雪模様から一転し今年度最後のフィールドワーク研修にふさわしい晴れの日が発となりました。まず、往路のバス車内ではDVD「部落解放運動のあゆみ」を觀賞し戦前の部落差別問題や水平社宣言等の活動内容に始まり現在いまだかつて残る結婚・就職差別について学びました。道路状況も順調で現地には予定より少し早く到着しました。しばらくすると荷台に大量の生々しい原皮を積んだトラックが行き交う場面を目の当たりにし衝撃を受けました。寒空の中お出迎えいただいたのは皮革研究家の柏葉嘉徳さん、勢いある特徴的な話し方で一瞬に情熱的な世界観に引き込まれました。ふだん拝見する機会がない皮革製造工場から案内していただきました。主な工程は原皮を塩水に漬け軟らかくした後、脱毛処理・背割り、タンニン・クロム等のなめし剤を皮に浸透させる「なめし」工程、皮の厚さ調整など数々の工程を経て初めて鞆や靴を加工する前の原材料となることを教わりました。昔はこの水漬け作業は寒い時期に河川に原皮を漬け込んで行われていたとの説明を受けました。差別的仕打ちを受けてこられた方々が川の近くに住まわされていたことにも繋がっていると推測されます。現在でこそ機械化が進んできたものの厳しい環境での生業であることを実感したと共に生々しい原料を見て我々

が革製品を手にすることができるのは命と引換えであるという「なんとも言えない」思いを胸に抱きました。姫路が世界に誇る「白なめし」は長い歴史のなかから育まれた世界に認められた技法で後世に引き継がれてきました。ここ西御着一帯にはかつて多くの皮革製造工場があったと言うことですが、現在は若い方の地元離れや安価な外国製品の流入などにより廃業せざるを得ない状況で閉鎖された工場跡や新規参入事業の工場がまさに建設中であることも見てとれました。

柏葉さんは日本人ではじめて皮革技能士の称号を授与され、本場イギリスに招待された経緯がおありでその際の話も楽しく聞かせていただきました。

我々が普段なにげなく手にしている皮革製品には長い年月の中から培われてきた技法や差別的仕打ちを受けた方々の歴史的知恵や想いが集積され、今日に存在していることを学ぶ大変充実した時間となりました。

午後からは楽しい指導の基、眼鏡ケース作りを体験し世界で一つだけのオリジナル眼鏡ケースが完成しました。皮革製品は正しく手入れをすれば一生もので、次の世代に受け継ぐことが出来るものであります。革製品の持つ性質と我々が担っている人権啓発推進活動とどこか共通する部分があると気付きました。たゆまない啓発活動により皮革研究家 柏葉さんの熱心な講義受講り正しい知識を継承することで褪せることのない一流の「ひと」づくりを目標に活動して行くことが我々に課せられた使命であると考えさせられました。



皮革研究家 柏葉さんの熱心な講義受講

土山サービスエリア 田中健二(記)